

ほんべつ



いいひと いいまち いきいき ほんべつ

2 明日かもしれない危機に備えて
防災総合訓練

6 復興を願って

8 「秋」芸術・文化・スポーツ
平成23年度本別町文化奨励賞

12 「ほんべつ学びの日の集い」を開催します
夢風事業

14 進化する図書館

16 福祉でまちづくり宣言記念事業
こころの健康づくり講演会

18 秋の交通安全運動
国民年金コーナー

20 宇宙に学ぶ人生の歩き方
開町110年
本別町消費者講演会
開町110年記念ほんべつ学びの日 夢風事業
物理学者佐治晴夫講演会

22 地方公共団体の財政の健全化に関する法律
に基づく健全化判断比率等を公表します

ハロー・仙美里中学校……………24
マイタウン……………25
みんなの健康・銀河ホットライン……………28
ご寄付ありがとうございます……………29
本のある暮らし・わたしたちのまち……………30



願いを込めて!

『第11回本別町の水源地の森林を造り育てる集い』（東部十勝森林管理署主催）が10月17日、水源地の本別沢で開催されました。勇足小学校（曾根広至校長）5年・6年生13人など約80人が、サクラ、オオバヤナギ、アオダモなどの苗500本を、「大きく育て」と願いを込めて植樹しました。

防災総合訓練

明日かもしれない 危機に備えて

十勝沖を震源とする震度6弱の大地震と雨による土砂災害を想定した5年に一度の防災総合訓練が10月5日、町内の各指定避難所および各小中学校・高校グラウンド、利別川河川敷芝生広場などで実施され、幼児から高齢者まで約1,700人が参加しました。



本番さながらの訓練

訓練は、午前9時45分のサイレン吹鳴とともに開始され、市街地の住民は指定避難所へ、市街地以外の住民は屋外へ一次避難をしました。避難方法は、徒歩や車イスを押してもらおう人、手を引かれる人などさまざま。

2次避難の対象となつている自治会は、自治会長や町防災担当者の指示に従い、徒歩で利別川河川敷芝生広場に移動。移動完了後開会式が行われ、町災害対策本部高橋正夫本部長が「有事の際には、安全な場所に避難することが大切。今日の訓練を通して、日常生活での安心安全の意識を高めてほしい」とあいさつ。場内では、災害用対策機械や防災グッズの展示のほか、AED（自動体外式除細動器）、災害伝言ダイヤルの体験、消防と警察が連携した事故車両からの負傷者の救出、自衛隊ヘリコプターでの倒壊家屋からの負傷者救助など、本番さながらの訓練が実施されました。



5年前の訓練と比較し、人口は約8.7%減少したものの、参加者は約1.2倍に増え、町民の防災への関心の高さが伺えます。



2次避難に向かう住民

「自助」「共助」で 災害を乗り越える

今年3月の東日本大震災のように、想定をはるかに超える津波など、自然災害を予知するのは容易ではありません。自らの命を守るためには、事前の備えをしっかりとし、被害を軽減する「減災」の取り組みが大切です。減災態勢を構築するためには、「公助」といわれる道や国、町が進める施設などの整備や救助に加え、地域住民自らが防災訓練や避難訓練に参加するなどの、防災意識を向上させる「自助」、さらには日ごろから隣近所同士が助けあう「共助」のすべてが備わる必要があります。

約8300人の本別町民を、「公助」と言われる役場・消防・警察など合わせて数百人で守るには限界があります。

被害を最小限に抑え、災害を乗り越えるためには、「自助」「共助」の強い意識を持ち、自らの命は自らで守るといった精神と取り組みが重要です。



※人口は両年度とも8月末の住民基本台帳の数字



1次避難で町防災担当者の説明を受ける参加者

明日かもしれない 危機に備えて

自主防災組織の設置し、災害時の役割分担などの体制を整えておくことで、一人でも多くの命を守ることができます。

今後の防災対策は、地域の皆さんと行政、各防災機関が連携を強めていく姿勢が求められています。災害に強いまちづくりを推進するために、各自治会での組織設立の検討をお願いします。

町内には、「自らの地域は自ら守る」という考え方にたった自主防災組織が、平成18年4月に北6丁目自治会が設立したのを皮切りに、現在まで14自治会で設置されています。

この組織は、万が一災害が起きた場合に、情報の収集や伝達、初期消火、避難誘導などを行うものです。

災害は、忘れたころにやっできます。災害の規模によっては、「公助」が期待できないことがあります。

自主防災組織で 災害に強いまちづくり

河川敷地で実施された、5年に一度の防災総合訓練では、災害対策の体験や訓練などさまざまな取り組みが行われました。しかし、これはあくまでも訓練であり本番ではありません。大災害が発生した場合は、電気・水道・下水道などのライフライン寸断や負傷などパニックに陥ることが想定されます。

いざというときには、まずは自分の安全を確保するとともに安全な場所に避難することが最優先です。安全が確保された後の行動では、マニュアル通りにいかないことが多いため、自らがその場で判断し、何が出来るか考えることが求められます。そのためにも一人ひとりの災害への知識と意識を高める必要があります。

あなたはどうする



負傷者の搬送



消防職員による車両の中に閉じ込められた負傷者の救出



300食用意されたカレーライスの炊き出し



自衛隊ヘリコプターでの倒壊家屋からの負傷者救助



災害伝言ダイヤル体験コーナー



2次避難に参加した多くの町民



自衛隊による仮設橋の設置

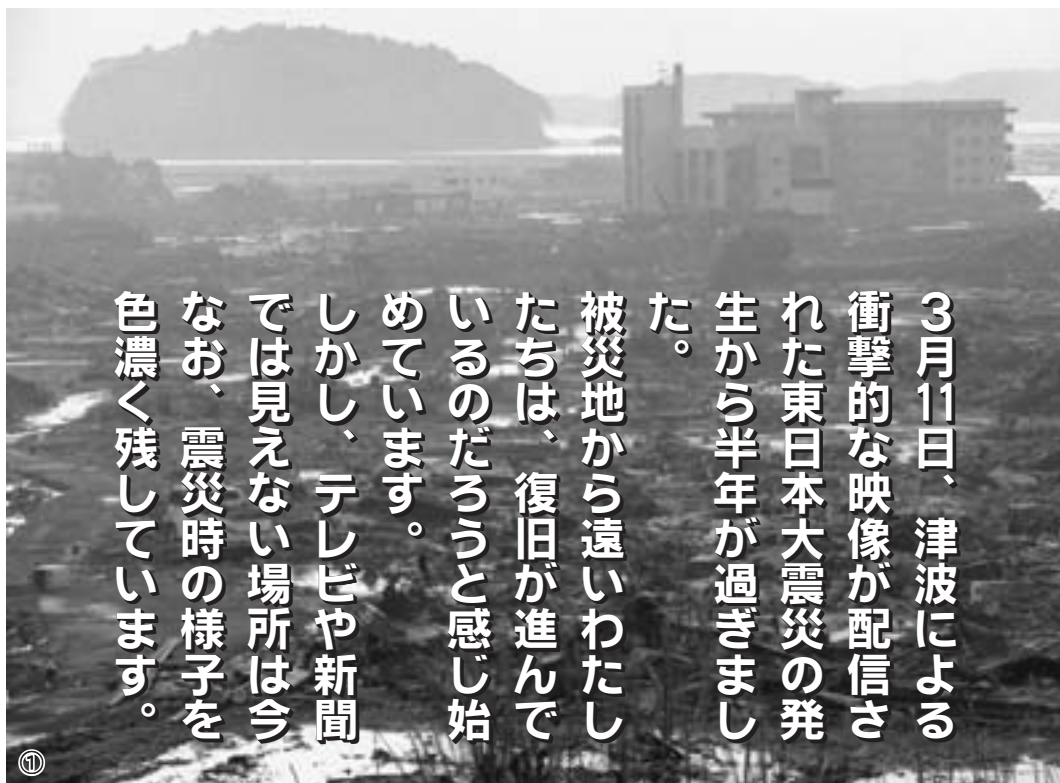


心肺蘇生法・AED講習

防災に関する問い合わせ
住民課環境生活担当 ☎ 22-8128

復興を願って

東日本大震災
南三陸町



3月11日、津波による衝撃的な映像が配信された東日本大震災の発生から半年が過ぎました。

被災地から遠いわしたちは、復旧が進んでいるのだろうかと感じ始めています。

しかし、テレビや新聞では見えない場所は今なお、震災時の様子を色濃く残しています。

福島原発事故による核汚染が問題になって以降、報道では、地震や津波で被災した地域の現状を報じる内容が少なくなっています。また報道内容も、復旧や復興状況が主となり、特に震災地から遠い地域では、手付かずの現場などがほとんど報じられず、震災が過去の出来事となりつつあります。しかし、実際の現場では、震災当時のままの被災跡も数多く存在し、本別町が支援している宮城県南三陸町も例外ではありません。震災を風化させることなく、息の長い支援が必要です。

あらためて感じた水（津波）の恐ろしさ

南三陸町を襲った津波は最大高、15・8mと言われていて、たかが水と思われがちですが、1mの津波でその破壊力は、平均1・5t/mと言われていて、おおよそ海とは関係がないだろうと思われような土地にまで海水が入り込んだ跡もあり、今回の津波の威力がどれほどであったかは、津波が引いた町並みを見ることがわかります。

高校生やお年寄りが日常の足として利用してき



たJR気仙沼線。震災後、復旧の見通しも立たないままなお当時の状況そのままに放置されています。



南三陸町歌津駅の様子

取り壊しの決まった防災庁舎



防災庁舎は、この震災の教訓とするべく、あの惨劇を繰り返さないための象徴として保存するとの意見も出されておりましたが、実際にその場で肉親や友人等を亡くされた方々にとっては目に触れたくない象徴でもあることから、これからこの町で暮らしていく方々の思いを汲み、取り壊す方向で進んでいます。

復旧に向けて

9月18日に行われた南三陸町震災復興計画会議において復興における道しるべが示されたことにより、復旧作業から具体の復興作業に入っていくものと思われませんが、ガレキの二次保管場所が決定しないなど、昔の姿を取り戻すにはまだ時間を要しそうです。

わたしたちの復興宣言

南三陸町と縁の深いわたしたちが、復興に向けて何ができるのか。相手の希望を最大限に取り入れながら進めるためには、まだ時間がかかりそうです。今回紹介しているものもほんの一部であり、ガレキの散乱、手付かずの建物など、まだまだ解決しなければならぬことが山積しています。そんな南三陸町の復興のために、わたしたちは何ができるのかを考えていかなければなりません。

自然災害は人災と違い、起こさないようにすることは現実的に不可能です。しかし、防災意識を高めることにより被害を最小限にすることは可能です。今回の震災も「本別町は海がないから大丈夫」など他人事と捉えるのではなく、自分のまちに置き換えて防災意識を高めていくことが必要です。

被災地の今

仮設住宅に暮らす人たちも、落ち込んでいるだけではありません。そこに暮らす人が楽しめる集会所を作り、自らが炊き出し等を行いながら地域の繋がりを作っています。また、集会所に集ることにより一人暮らしのお年寄りなどの確認を行うなど、地域コミュニティも少しずつ形成されています。



南三陸防災FM（FMみなさん）では震災以降、住民にとって重要な情報を朝・夕の2回、生放送で届けています。スタジオは体育館の2階通路を利用し仮設で放送していますが、スタッフ全員、南三陸町の元氣のため奮闘しています。

支援の手はまだ続いています

休日になると、まだまだ多くのボランティアの皆さんがガレキ撤去のために南三陸町に集まってきました。こういった方々は誰かに言われたのではなく自らが何ができるのかを考え足をこんできた人たちです。

壊滅的な被害を受けた歌津地区の漁港と津波にさらわれ橋脚だけが残る国道45号線歌津大橋



南三陸町に存在した大小様々な漁港はほぼ壊滅的な状況。水産業の要であった市場や漁船も津波により損壊。そんな中でも、片付けられた漁港ではサケの水揚げが始められています。



まだ被害の残る志津川漁港でも、ギンザケの水揚げが再開されました。



3連休の初日だった9月23日、南三陸町に設置されたボランティアセンターに大型バスが続々と集結。多くのボランティアを運んできました



憩いの場として仮設住宅内の敷地に福幸茶論（ふっこうさろん）と銘銘された集会所が開設され、住民が集いを楽しんでいます

①・②の写真は津波が襲来した翌朝の写真です
写真提供／元南三陸新聞記者 大森領樹さん

鋭いスパイクが交錯

第39回全十勝家庭婦人交歓バレーボール大会兼道新杯争奪家庭婦人バレーボール大会（町教育委員会、町体育協会、北海道新聞社本別支局、本別バレーボール協会主催）が9月25日、本別中学校体育館で開催され、管内から5チーム約70人が参加しました。ゲームはトーナメント戦で実施され、コート内では鋭いスパイクが交錯する熱戦が繰り広げられました。成績は次の通り。※本別町分
準優勝=本別クラブ



本別高校 交通安全強歩大会

本別高等学校（松下龍一校長、209人）の第30回交通安全強歩大会が9月22日に開催されました。元気いっばいにスタートした生徒たちは、男子42.195km、女子30kmのコースを、交通安全標語の入った手作りのゼッケンを背中に付け、ドライバーや沿道の人に交通安全をPRしながら、それぞれのペースで走り抜きました。



秋といえば、芸術・文化・スポーツなど、何をするにも過ぎしやすい季節。夏の蒸し暑さがうそのように朝晩は冷え込み、山も色づくなどすっきり秋らしくなった町内では、様々な催しが繰り広げられました。子どもから高齢者までの幅広い人々が披露した日ごろの成果を紹介します。皆さんも、この秋から自分のためにか始めてみませんか。



art
芸術
culture
文化
sports
スポーツ

ラリー北海道2011

ラリー北海道（アジアパシフィックラリー選手権第5戦、全日本ラリー選手権第7戦）が10月2日、活込から上押帯間の10.78kmのスペシャル・ステージ「本別林道コース」で開催されました。ラリーカーは土煙を上げながら迫力ある走りを見せ、特設ステージで観戦するファン550人の前を爆音とともに走り抜けました。前日には道の駅ステラ★ほんべつでラリーパークも実施され、多くのファンがラリーカーに声援を送りました。



日ごろの練習の 成果を披露

第40回本別町音楽祭（町文化協会、中央公民館主催）が9月24日、中央公民館で開催されました。2個人6団体が参加し、吹奏楽や弾き語り、ピアノ演奏など日ごろの練習の成果を披露。会場には約220人が来場し、演奏が終わるたびに多くの拍手が送られました。



高齢者運動会

第40回本別町高齢者運動会（町社会福祉協議会主催）が10月2日、町体育館で開催されました。町内の12老人クラブから参加した約170人は、4チームに分かれ、サイコロ転がしなど全7種目で対決。チームの仲間と協力しながら得点を競い合い、気持ちのいい汗を流しました。



本中強歩大会

本別中学校（山口弘康校長、159人）強歩大会が10月12日に開催されました。コースは池田町高島コミュニティーセンターから本別中学校までの約19km。ピストルの合図で、走り組はタイムを競い、歩き組は景色を眺めながらゆっくと、それぞれのペースに合わせてゴールを目指しました。



遊・遊ゲームランド

体育の日を記念した「遊・遊ゲームランド」（教育委員会主催）が10月10日、町体育館で開催されました。会場には家族連れや子供たちなど約60人が訪れ、ストラックアウトやキックターゲットなど6種目のゲームで点数を競ったほか、体力測定に挑戦するなどにぎわいを見せました。外では、この一環としてノルディックウォーキングも実施されました。



真剣勝負

十勝スポーツ少年団剣道交歓大会（十勝スポーツ少年団本部主催）が10月15日、町体育館で開催されました。小学生団体、中学生男子・女子個人の3種目に、6団体65人がエントリー。選手たちは、優勝目指し気合の入った掛け声で、1本を争う真剣勝負を展開しました。成績は次の通り。※本別町分

【中学生男子個人】第3位＝野崎隼杜



秋 芸術 文化 スポーツ

平成23年度

町文化奨励賞に

丑若理恵さん 大正琴たんぽぽサークル

今年度の文化奨励賞が10月19日の町教育委員会で決定しました。受賞者は次の通りです。

文化奨励賞

個人

丑若理恵さん

（勇足東2）

海道民謡連盟民謡三味線講師、十勝民謡友の会準師範の資格を取得し後進の指導に当たるほか、町文化祭・民謡三味線発表会などの文化事業への出演や勇足地区公民館祭りなどの地域活動にも積極的に参加するなど、邦楽文化普及発展の活動を通し本町の文化振興に寄与した功績は誠に大きいものがある。

団体

大正琴たんぽぽサークル

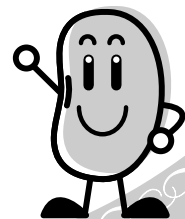
（篠原幸子代表…北5丁目）

平成3年大正琴の魅力に感動した者が集まり、大正琴の普及と会員の親睦を図

るために大正琴たんぽぽサークルが結成される。大正琴は、大正琴用の数字譜があるため五線譜の読めない人でも演奏可能となっており、年代を問わず楽しめる楽器である。同会は、その身近な楽器の楽しさや奥深さを多くの人に知ってもらい、親しんでもらうため会員が丸となり研さんを積んでいる。

平成8年には、大正琴の更なる普及と発展を願う町文化協会に加入する。生活に密着した音楽活動の魅力を知ってもらうため、町音楽祭や全十勝おひろめ会などに積極的に参加し、平日頃まわりに伝え広める活動を行っている。また、地域の敬老会で演奏する等社会活動にも積極的に関わるなど、本町の文化振興に寄与した功績は誠に大きいものがある。

授賞式は11月3日（文化の日）
午前10時から 中央公民館
大ホールで行われます





日程

9:30	10:00	10:20	11:00	11:20	11:40
受付	ほんべつ学びの日 啓発セレモニー 開会・あいさつ 宣言文朗唱 4つの風紹介	ほんべつ学びの日 トーク 第27次本別・南三陸 ふるさと交流研修会 を振り返って	講話 児童文学作家 矢崎節夫氏	本別ジュニア アラスアン サンプル 演奏	閉会

内容

□ほんべつ学びの日トーク

8月に本別町で実施されたふるさと交流研修会を、研修に携わった団体の皆さんが、映像を含めて振り返ります。

□講話

児童文学作家矢崎節夫氏を迎え、東日本大震災被災地への支援についてお話いただきます。



▶▶矢崎節夫氏プロフィール

昭和22年、東京生まれ。早稲田大学英文科卒業。大学在学中より童謡・童話の世界を志し、童謡詩人佐藤義美、まど・みちおに師事。昭和57年に童話集『ほしとそらのしたで』（フレーベル館）で、第12回赤い鳥文学賞を受賞する。自身の創作活動の傍ら、学生時代に出会った一編の詩に衝撃を受け、その作者である童謡詩人金子みすゞの作品を探し続ける。平成5年には、『童謡詩人金子みすゞの生涯』（JULIA出版）において、日本児童文学学会賞を受賞。近年は、全国各地で、金子みすゞの蘇りを多くの人々に伝える。呼びかけにより、ネパールにみすゞの名前を冠した小学校が建設されるなど、その活動は多岐に広がり実を結びつつある。平成15年4月、金子みすゞ記念館（山口県長門市）館長に就任。

問い合わせ
教育委員会 0222-2331

共催
本別町
本別町教育委員会

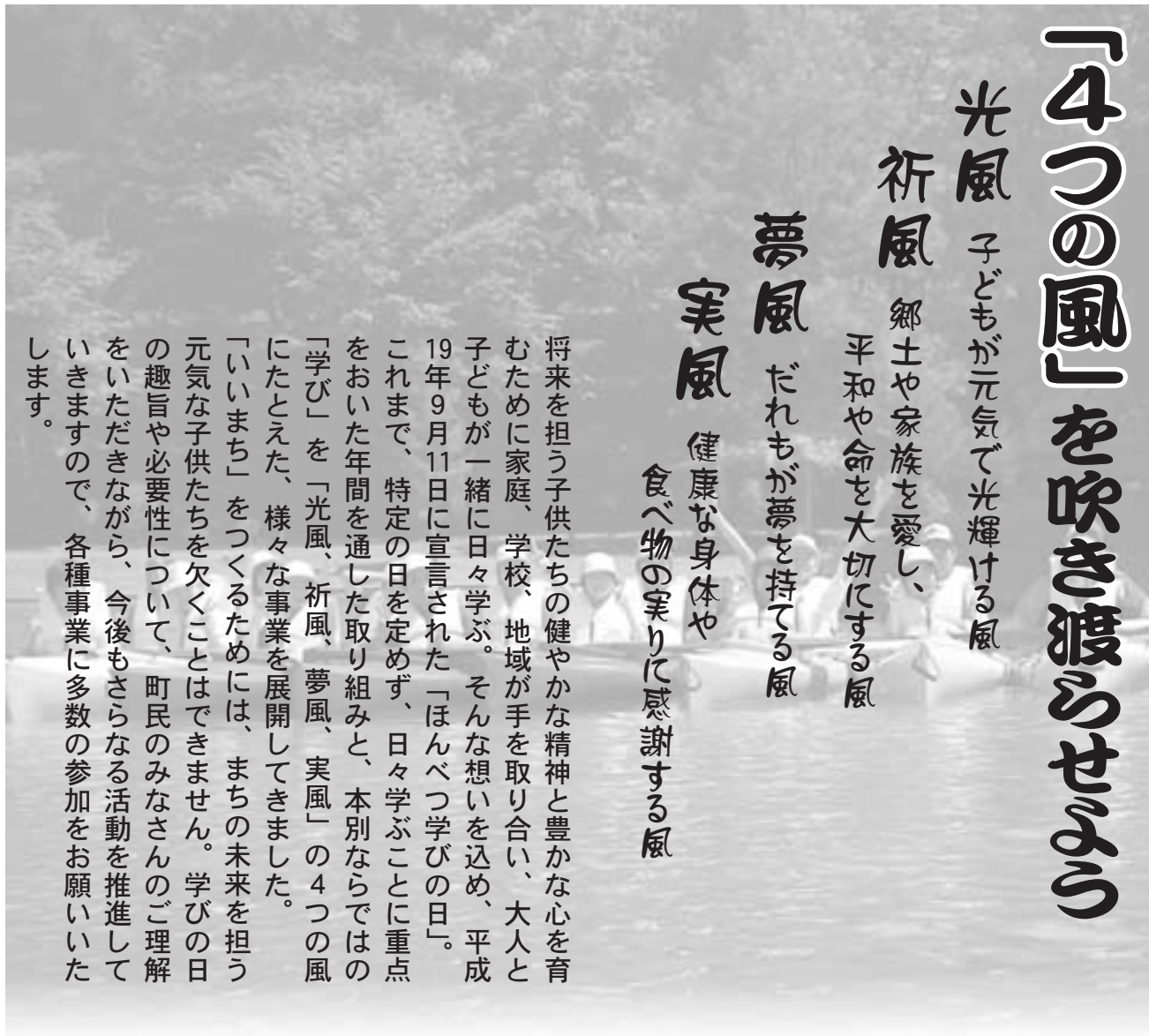
主催
北海道教育庁十勝教育局
十勝管内教育委員会連絡協議会

内容
□矢崎節夫講演会
午後1時15分～午後2時15分
テーマ「みすゞさんとこだましあおう」
□我が町の教育自慢
午後2時25分～午後3時25分
本別・足寄・陸別町がそれぞれの教育の取り組みを紹介します
※本別町は、本別中央小学校6年生6人が朗読劇でほんべつ空襲を紹介します

とき
11月12日(土)
午後1時～午後4時30分

ところ
中央公民館 大ホール

平成23年度
十勝教育を考えるイベント
十勝教育の充実と発展を図り、「家庭、学校、地域、行政が協働で取り組む機運を高める」ことを目的に、次の通り「十勝教育を考えるつどい」が開催されます。多くの皆さんのお越しをお待ちしています。



夢風事業

「ほんべつ学びの日の集い」 を開催します

テーマ「ほんべつ学びの日の活動を通して
絆を深めよう!!」

とき 11月12日(土) 午前10時
ところ 中央公民館

平成22年度の図書館利用統計

- ▶利用人数 18,645人
60.7人/1日平均
- ▶貸出冊数 42,958冊
139.9冊/1日平均
7.9冊/町民一人当たりの貸出冊数
- ▶利用登録者数 3,268人
- ▶予約・リクエスト件数 884件
- ▶図書館事業参加者数 540人

新たな取り組みをスタート

あなたも探してみませんか

10月1日から、館内に平成17年4月から2カ月前までの十勝毎日新聞の記事を探すことができるパソコンが設置されました。利用は無料で、だれでも使うことができます。使用方法は簡単で、パソコンを使い見たい記事の日付や目次、キーワードで簡単に検索することができます。

※お目当ての記事が見つかり、プリントしたい場合はA3サイズまで印刷可能で1枚10円となります。

もし、使用方法が分からなければ遠慮なくカウンターにお尋ねください。

なお、平成17年3月以前と2カ月前からの記事はカウンターに確認ください。縮刷版または新聞原紙で見ることがあります。北海道新聞については、昭和42年4月からの記事を縮刷版で見ることがあります。

あなたも、ご自分や家族などが掲載された記事をもう一度探してみませんか。

図書館システム入力済み蔵書の数および構成比（平成22年度末）

分類	蔵書数	構成比(%)
文学	15,852	30.3
児童	14,337	27.4
芸術	4,363	8.3
社会科学	3,564	6.8
技術	3,176	6.1
歴史	2,914	5.6
自然哲学	1,994	3.8
産業	1,265	2.4
哲学	1,123	2.1
総記	966	1.8
ビデオ	745	1.4
言語	656	1.3
CD	461	0.9
雑誌	417	0.8
郷土	403	0.8
DVD	116	0.2
合計	52,352	100.0

※この他にも、図書館システムに入力されていない書籍や資料11,913冊が蔵書されています

来年度はもっとすごい

来年4月からは、このパソコン1台で、現在の新聞記事検索機能にプラスして、今まで図書館や歴史民俗資料館で収集し蓄積してきた本別町の歴史や写真、伝説などを分かりやすくコンパクトにまとめた情報を身近に見ることができるようになります。図書館がさらに充実し、おもしろくなりますので楽しみにしてください。



新聞記事検索パソコン

進化する図書館



子どもや大人、季節や時間など、その時々に合わせて様々な催しを展開し、皆さんに親しまれている図書館。そんな図書館が、10月1日から新たな取り組みをスタートさせ、さらに充実し、おもしろくなりました。

年間約1万8700人が利用

図書館は、昭和56年に開館されて以来、現在は図書や雑誌、CDなど約6万5000点の資料を備え、年間約1万8700人に利用されています。利用者は幼児から高齢者まで幅広く、利用方法も、本を借りるのみの人もいれば、館内で読書したり勉強する人など様々です。

本の素晴らしさを伝えるために

図書館では、本の貸し出しと返却以外に、図書館ボランティアなどの協力を得ながら、絵本の朗読や読み聞かせ、講座、講



図書館講座の様子

演会、胎教からの読み聞かせで、お母さんと赤ちゃんのコミュニケーションを深め、心とこばを育てるファーストブック事業など、多くの事業を展開し本の素晴らしさを伝えていきます。昨年度は約540人が参加しました。

問い合わせ 本別町図書館 ☎ 22-5112

福祉でまちづくり宣言記念事業

「みんなで考える！これからの福祉」と題した福祉でまちづくり宣言記念事業が10月7日、中央公民館で開催されました。本別中央小学校4年生による福祉でまちづくり宣言文の朗読で幕を開け、小・中学校での福祉学習の発表や講演、座談会が行われました。

(財)長寿社会開発センター常務理事石黒秀喜氏による「老いの準備を始めよう」と題した講演では、上手に老いるためのポイントとして、自己点検ノートを作ること、社会的に孤立しないよう自分でネットワークをつくる大切さを話しました。また、認知証を理由とした気遣いや親切は本人の意欲を減退させる要因



であり、何でもしてあげることは良くないことを挙げ、認知症は予防でき、改善できることを訴えました。座談会では4人のパネラーが、自分の死をどのように迎えるかそれぞれの体験をもとに話され、会場に集まった約400人は、改めて自分の老いについて考える時間になりました。



座談会のパネラー、三枝金作さん、棚原千佳子さん、山本榮子さん、菊池康祥さん(左から)



福祉でまちづくり宣言文を朗読した本別中央小学校4年生12人



本別中学校介護福祉コースでの学習の成果を発表した7人

サブイベントとして、障がい者アート展や町内各施設入所者の作品などを展示。多くの人々の目を楽しませました。

たくさんの作品を展示



こころの健康づくり講演会

自殺を未然に防ぐ取り組みを昨年から実施している本別町。これまで、保健師が町内の職場や学校へ足を運びメンタルヘルスについての現状を把握しながら、講演会やパンフレットを配布することで、自殺予防の啓発を実施してきました。今年10月13日、総合ケアセンターで大江病院鎌田裕樹副院長を講師に「自殺予防とうつ」と題したこころの健康づくり講演会が開催され、会場に集まった約1000人は、自殺を未然に防ぐ対処法について学びました。

いつもと違うと思ったら

専門家へ!

鎌田副院長は、いくつもの不安要素(健康や経済的な問題などが重なり、自己解決ができなくなることからうつ病は発症する。さらに問題や不安を抱えることで、自殺への危険度が増していくため、病が発症しないよう良好な健康状態を保つことが必要であると話しました。



ひとりで悩まず 相談してみませんか?

とき 11月4日(金)、12月16日(金)、
平成24年1月20日(金)、
2月20日(月)、3月16日(金)
午後3時から午後7時まで

※事前予約が必要です。申し込みおよび詳しいことについては、健康管理センター(☎22-2219)までお問い合わせください。



交通安全運動

私たちの生活の一部となっている自動車は、便利な反面、一歩間違えると人生を大きく揺るがす悲劇を生みます。

そんな悲惨な交通事故を一つでも減らそうと、町内では各団体が、農作物の輸送繁忙期を迎え交通量が増加し、夕暮れが早くなるなど交通条件が悪化するこの時期に、交通安全教室や街頭啓発を実施しました。

このような地道な活動の成果もあり、本別町の死亡事故ゼロの記録は9月19日に1500日を突破し、現在もこの記録を更新中です。(10月25日現在・1537日) この記録がいつまでも継続されるよう一人一人が交通安全への意識を忘れず、事故のない楽しい毎日を過ごしましょう。



本別・足寄・陸別の三町交通安全協会主催による「交通安全タスキリレー」今年陸別町からスタートし、足寄町から本別町へタスキが引き継がれました 9/27



北海道警友会本別支部(木田弘支部長) 9/28



本別町交通安全協会(前田進会長)と柏木町交通安全推進部母の会(澤田京子会長) 9/27

交通安全キャンペーン



本別ライオンズクラブ(山下博明会長) 10/13



仙美里小・中学校 10/12

交通死亡事故ゼロの日
現在も記録更新中!!

交通事故死 1537日

10月25日現在



本別町こぐまクラブ連絡協議会(新津利香会長)が幼児の交通安全教室を実施。町内の保育所、幼稚園、保護者など約180人が参加し、腹話術などで、信号の見方や横断歩道の渡り方などを学びました 10/12

国民年金

その115

「社会保険料(国民年金保険料)控除証明書」が送付されます

国民年金保険料は、全額が社会保険料控除の対象となります!

国民年金保険料について社会保険料控除の適用を受ける場合には、「領収書」または「社会保険料(国民年金保険料)控除証明書」の添付が義務付けられています。

平成23年中に国民年金保険料を納付された人には、控除証明書が11月または翌年2月に送付されます。年末調整や確定申告の際には、控除証明書や領収書が必要となりますので、大切に保管してください。

11月に送付される人

平成23年1月1日から平成23年9月30日までの間に国民年金の保険料を納付された人

翌年2月に送付される人

平成23年10月1日から平成23年12月31日までの間に今年初めて国民年金の保険料を納付された人
※11月に送付された場合は、翌年2月には送付されません

○「社会保険料(国民年金保険料)控除証明書」に記載されている月分以外(未納になっていた前年分あるいは翌年分など)の保険料を12月31日までの間に納付した場合、今年分として申告ができます。「社会保険料(国民年金保険料)控除証明書」に記載されている保険料額に、後から納付した保険料額を合算して申告してください。なお、後から納付した保険料分の「領収書」も添付する必要があります。

○世帯主または配偶者としてご家族の国民年金保険料を納付された場合は、納付した人がその保険料を申告することができます。



詳しくは
住民課戸籍年金担当へ

☎22-8128

宇宙に学ぶ人生の歩き方

人間の不思議を考える

理学博士佐治晴夫さんの「宇宙に学ぶ人生の歩き方」と題した講演会が9月30日、中央公民館で開催され、約300人の来場者が真剣な眼差しで講演に耳を傾けました。

もともとは全て星のかけら

佐治博士は、自らの研究を通して、宇宙と地球、人間の関わりについてを、月探査機「かぐや」が最後に映した美しい地球の映像や壮大な宇宙の話、ピアノ演奏を交えながら語りました。
その中で、地球は「もともと星が爆発してできた、光（星）の小さな粒」だったと述べ、地球上の全てはそこから始まったと説明。自分の顔を死ぬまで見ることができない人間は、「相手を通してでしか自分からわからない。周りがあって自分を確認することができる」と、一人では生きていけないことを強調しました。また、自分とは「自然」から分かれた分身であり、自然の一部であること話をしたほか、「人間の祖先は魚である」「人間は最初、全て女性」であるなど人間の誕生に至る進化の歴史についても触れました。

最後に、もともと全ては星のかけら。人間が「お互いに思い、相手に寄り添うことで、自分と相手をひっくり返しても成り立つ関係を保つことができ、平和につながる」とメッセージを送りました。



講演する佐治博士

星から生まれた私たち

同日午前中に、本別中央小学校体育館で町内3小学校と仙美里・勇足中学校の児童・生徒を対象とした講演会が開かれました。テーマは「星から生まれた私たち」。約260人の子供たちは、佐治博士の宇宙のロマンにあふれた話に、目を輝かせながら聞き入っていました。



かっこいい消費生活をおくるために

近年多様化する消費者トラブル。しっかりとした知識をもって対処できるよう開町110年本別町消費者講演会が10月20日、町体育館で開催されました。弁護士であり東京経済大学現代法学部教授の村千鶴子さんが、そもそもなぜ消費者は騙されるのか？という観点から数々の悪徳商法の手口や対処法について講演。誰もが騙される要素もっているので、自分は絶対大丈夫と過信せず、かっこいい消費生活を送りましょうとアドバイスしました。



村弁護士は、悪徳商法について、震災を口実にした事例などをいくつか紹介した後、悪徳業者は手口を変えずに、話題をタイムリーなものに日々変化させながら騙してくるので、手口の基本をしっかり覚えて騙されないようにしてと警告しました。また、相手は話術を備えたプロ。情報や交渉力の格差につけ込んでくるので、正しい知識の習得や、地域全体で悪徳業者が入ってこないようスキルアップをする必要があると話し、消費者相談窓口や消費生活センターなどを上手に利用して自らが自らの生活を守りましょうと話しました。
もし、訪問販売や電話勧誘などがきた場合は、セールスとの接触時間が長くなるほど断れなくなるので、時間を使わずに断ることが重要で、『いりません！買いません！必要ありません！』と断らないものはきっぱり断り、かっこいい消費生活を送りましょうと締めくくりました。会場に集まった約50人は悪徳商法の手口や対処法を学ぼうと真剣に耳を傾けていました。



『地方公共団体の財政の健全化に関する法律』 に基づく健全化判断比率等を公表します

町のホームページ <http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/> でもご覧になれます

『地方公共団体の
財政の健全化に関する法律』
の規定により毎年度地方公共団体の
決算状況を連結ベースで財政分析する、
健全化判断比率等の算定および
公表が義務付けられています。

地方公共団体の財政の 健全化に関する法律とは

これまでの自治体再建法制度では、地方公共団体の普通会計において赤字額が標準財政規模の20%（道府県は5%）を超えたり、レックードカードが出て財政再建団体となり、イエローカードともいえる注意喚起の段階がありませんでした。また、特別会計や企業会計にいくら累積赤字があっても財政再建団体とはなりません。

この法律では、「早期健全化」と「財政再生」の二段階で財政悪化をチェックするとともに、特別会計や企業会計もあわせた連結決算により地方公共団体の財政状況をより明らかにしようとするものです。

○財政再生団体（レックード）の前に、早期健全化団体（イエローカード）の段階が設けられました

○地方公共団体の本体に公営企業・一部事務組合・第三セクターなども加えて判断するようになりました

○単年度の現金収支に加えて、過去からの累積に基づく基準ができました（将来負担比率）
○公営企業の経営に関して、経営の健全化を促す基準ができました（資金不足比率）



早期健全化団体になると

健全化判断比率指標のいずれかが早期健全化基準を上回ると、財政健全化計画の策定（議会の議決）、外部監査の要求が義務づけられ、計画の実施状況を毎年度議会に公表し、早期健全化が著しく困難と認められるときは知事から必要な勧告が行われます。
（平成20年度決算から適用）

財政再生団体になると

健全化判断比率指標のいずれかが財政再生基準を上回ると、財政再生計画の策定（議会の議決）、外部監査要求の義務づけ、計画の実施状況の報告、公表に加え、財政再生計画を総務大臣に協議し、同意を求めなくてはなりません（※1）。また、財政運営が計画に適合しないと認められる場合等において、予算の変更等が勧告されます。
（平成20年度決算から適用）

※1 同意がなければ、災害復旧事業費等を除き地方債の起債が制限されます

経営健全化基準について

早期健全化基準に相当するもので、各公営企業会計の資金不足比率が経営健全化基準を上回れば経営健全化計画の策定が義務づけられます。
（平成20年度決算から適用）

健全化比率の 一般家庭でのイメージ

私たちの1年間の家計に例えると、日々の生活における収入と支出の状況や、現在の借入金と貯金のバランスを比率化したイメージとなります。

例えば、二世帯住宅で暮らすAさん夫婦世帯（一般会計）、息子さん夫婦世帯（企業会計）を本別町に例えた場合、

◆実質赤字比率

Aさん夫婦世帯の1年間の収入と支出の結果、赤字だった場合、その赤字額が家計規模に対してどの位の割合だったのかを表します。

◆連結実質赤字比率

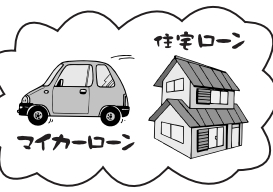
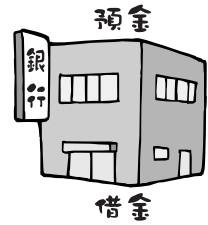
Aさん夫婦世帯、息子さん夫婦世帯の1年間の収入と支出の結果、赤字だった場合、その赤字額がAさん夫婦世帯の家計の規模に対してどの位の割合だったのかを表します。

◆実質公債費比率

家族全員の1年間の住宅取得や自動車購入などの借入金返済額のうち、Aさん夫婦世帯が負担した返済額が、Aさん夫婦世帯の家計規模に対してどの位の割合だったのかを表します。

◆将来負担比率

家族全員の住宅取得や自動車購入などの借入金残高など、Aさん夫婦世帯が将来負担を予定している費用から貯金を差引いた額が、Aさん夫婦世帯の家計規模に対してどの位の割合だったのかを表します。



平成22年度決算に基づく本別町の 健全化判断比率および資金不足比率について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成19年法律第94号）第3条第1項及び第22条第1項の規定により、本別町における平成22年度決算に基づく健全化判断比率および資金不足比率について公表します。

1 健全化判断比率

平成22年度本別町各会計の決算に基づき健全化判断比率を算定したところ、下表のとおり、いずれの指標についても早期健全化基準、財政再生基準を下回りました。

指 標	本 別 町		早期健全化基準	財政再生基準
	平成22年度	平成21年度		
実質赤字比率	- %	- %	15.0%	20.0%
連結実質赤字比率	- %	- %	20.0%	35.0%
実質公債費比率	13.3%	15.6%	25.0%	35.0%
将来負担比率	50.0%	71.7%	350.0%	

※実質赤字比率または連結実質赤字比率は、それぞれ赤字額がないため「-」で表示しています

※連結実質赤字比率の財政再生基準については、市町村は30.0%とされていますが、3年間の経過的な基準が設けられています

2 資金不足比率

各公営企業会計における資金不足比率については、平成22年度決算において資金不足を生じた公営企業がないため、該当ありません。

会 計 の 名 称	本 別 町		経営健全化 基 準
	平成22年度	平成21年度	
水道事業会計	- %	- %	20.0%
国民健康保険病院事業会計	- %	- %	
簡易水道特別会計	- %	- %	
公共下水道特別会計	- %	- %	

※資金不足比率は、資金不足額がないため、「-」で表示しています。

○健全化判断比率および資金不足比率については、監査委員の審査に付した後、その意見を付して、9月定例町議会に報告いたしました。

父さんもがんばる 10/2

本別中学校文化祭が10月2日に開催され、今年も生徒の父親で組織する義経の会（加藤勉代表）が、焼き鳥やフランクフルト、フライドポテトなどの屋台を出店。お昼時には、多くの生徒や保護者などでにぎわいました。



よい食生活をすすめるために 9/29

本別町食生活改善推進員協議会（小泉優子会長）による料理講習会が9月29日、健康管理センターで開催されました。子どもから高齢者まで「食」を通じ健康づくりを進めるため、毎年実施されているもので、参加した16人は、エビとジャガイモのグラタンなど3品を調理しながら食事のバランスやよい食生活のポイントを学びました。



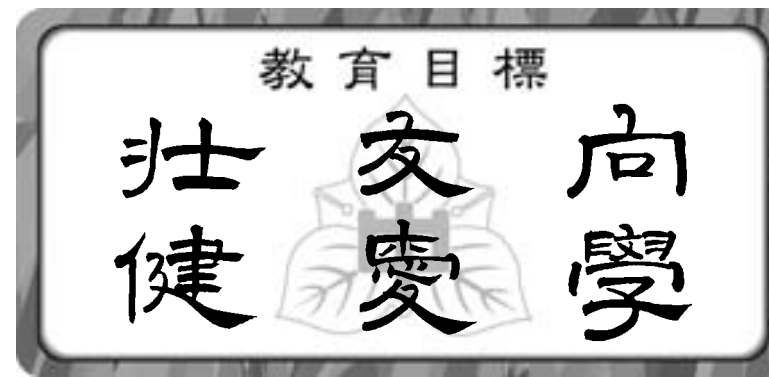
心も身体もリフレッシュ 9/30

家庭教育支援事業なかよし「育児ママのためのリフレッシュ講座」が9月30日、健康管理センターで開催されました。スペースリポーンカウンセラーの圓山嘉都美さんを講師に、自分を見つめ直し、心や身体をリフレッシュする時間として、4回シリーズで実施されます。第1回に参加した11人のお母さんは自己紹介をしながら、講座に参加した思いなどを語り合い、穏やかな時間を過ごしました。



月1回の認知症予防教室 10/3

錦町自治会（池田健自治会長）の毎月1回の認知症予防教室が10月3日、本別公園で開催されました。この日は、秋を感じながらの昼食や散歩を楽しみましたが、突然の雨に見舞われたため急ぎよ錦町会館へ移動。参加した27人は、手遊びやすき焼きじゃんけんなどのゲームで親睦を深めました。



実りの秋を迎え、充実する生徒の文化活動 - 皆様の支えに感謝 -

地域や保護者の皆様に支えていただき、生徒の様々な活動が実りの秋を迎えています。地域との交流や作業協力、給食の提供など、多くの温かい支えをいただき心より感謝申し上げます。生徒の学びで重視している話すこと、聞くこと、書くことを中心とした「言語活動」の充実、意見発表や様々な場面で学力やコミュニケーション力の基礎となり、生徒の活躍に結びついています。



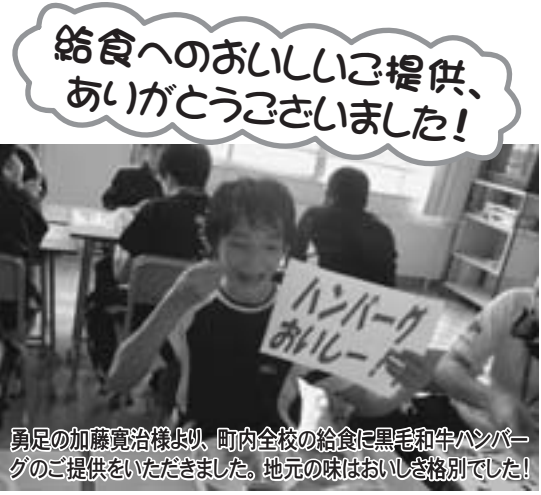
全校生徒で仙美里地区の「陽だまりの里」を生徒会ボランティアで訪れ、世代を超えた交流を行いました



9月に本校を訪問したミッチェル市の訪問団との交流の様子。ゲームを通じ笑顔の広がる一コマです



PTAによる環境整備。外窓もあっとい間にきれいになりました



勇足のか藤寛治様より、町内全校の給食に黒毛和牛ハンバーグのご提供をいただきました。地元の味はおいしき格別でした!



町内意見発表大会で活躍! 最優秀賞で十勝大会出場の貝沼健君(右)と優良賞の成田輝美さん(左)



感情豊かに語る町内英語暗唱大会2年生最優秀賞の大泉瑛弥子さん。十勝大会でも最優秀賞獲得!



受信環境クリーン図案コンクール中央協議会奨励賞(全道最高位)獲得のか藤雅大君と受賞作品

ボランティア いるだけでそこが笑顔だよ

(井出拓人君(1年) 町福祉大会入選作品)

防火管理について学ぶ 10 7

町防火管理者連絡協議会（三好喜美雄会長）による防火研修会が10月7日、中央公民館視聴覚室で開催されました。今年は、消防緊急援助隊として東日本大震災の被災地へ派遣された本別消防署職員の講話と施設や消防用設備の日常点検の方法について学習。参加した会員20人は、防火意識を高めるとともに防火対策の必要性を再確認しました。



ちょっぴり緊張 10 13

本別高等学校（松下龍一校長）1学年67人の職場体験学習が10月13日、14日の2日間、町内企業や官公庁など25カ所で行われました。本別消防署には11人が訪れ、消防署員から消防組織や仕事の内容について説明を受けた後、救助の際に使用するロープ渡りの訓練を体験。慣れない動作に戸惑いながらも真剣に取り組んでいました。



道内自治体職員が研さんを深める 10 12

市町村職員道内先進事例研修（（財）北海道市町村振興協会主催）が10月12日、総合ケアセンターで開催され、道内11市町から15人が参加し研さんを深めました。道内3カ所の視察先の一つに指定された本別町の研修テーマは「福祉でまちづくりの取り組み」。砂原勝副町長から、本別の福祉の原点について話しがあった後、担当者から福祉でまちづくりに至った経過などを説明したほか、活発な意見交換も行われました。



秋の火災予防運動パレード 10 15

秋の火災予防運動パレードが、運動初日の10月15日、午前9時のサイレン吹鳴とともに実施されました。高橋正夫町長が「これからは日々気温が下がり、日暮れも早く家庭でも暖房機器を使う時期。この火災予防週間を機にさらなる町民への火災予防、防災の啓発を強化してほしい」とあいさつ。消防車や本別町危険物安全協会会員の燃料輸送車など19台が消防署前を出発し、火災予防を訴えながら町内をパレードしました。



平成23年度防火標語・ポスター入賞者決まる 10 15

本別町防火管理者連絡協議会（三好喜美雄会長）、本別町危険物安全協会（朝日基光会長）が本別ライオンズクラブの協賛を得て、町内の小学4年生から6年生を対象に防火標語とポスターの募集をし、防火標語に139編、防火ポスターに33作品の応募がありました。子供たちからの火災予防へのメッセージが込められた作品は、防火標語・ポスター展として10月15日から29日まで中央公民館ロビーに展示されました。また、防火ポスターの部最優秀賞（本別町防火管理者連絡協議会会長賞）の作品は、防火ポスターとして印刷され町内各事業所に掲示されています。入賞者は次の通り。（敬称略）

【防火標語の部】
 防火管理者連絡協議会会長賞＝
 「火は消した！」決めつけしないで 再かくにん
 西村明莉（中央小6年）

危険物安全協会会長賞＝
 「火が笑う 耳をすまして 聞いてみよう」
 福田雅代（仙美里小5年）

本別ライオンズクラブ会長賞＝
 「火遊びは あぶないかげが ちかづくよ」
 福田翔子（勇足小4年）

【防火ポスターの部】
 防火管理者連絡協議会会長賞＝
 田中緒人（中央小6年）

危険物安全協会会長賞＝
 竹村菜々子（勇足小5年）

本別ライオンズクラブ会長賞＝
 佐藤ななみ（仙美里小4年）



農業大学校から野菜のプレゼント 10 19

北海道立農業大学校（鞍懸周校長）の畑作園芸科の生徒3人が10月19日、地域活動支援センターつつじの園（遠藤一雄理事長）を訪れ、カボチャ、ニンジン、タマネギ、ジャガイモ各10kgをプレゼントしました。これは、平成11年から毎年農業大学校の卒業生に対し、同園から本別町の思い出として、手作りのはがきセットを贈っており、そのお礼として贈られたもので、園生代表の榎田大輔さんは「ありがとうございます。おいしくいただきます」と感謝の気持ちを述べました。



農大市 10 22

北海道農業大学校（鞍懸周校長）で10月22日、恒例の農大市が開催され、学生が授業で作ったジャガイモや玉ネギ、牛肉などの農畜産物、チーズやベーコンなどの加工品が低価格で販売されました。農大市は、授業の一環として地域住民との交流などを目的に毎年実施されているもので、町内外から新鮮な農畜産物などを求めるたくさんの買い物客が訪れました。



情報を広報電算担当へお寄せください ☎22-8121

みんなの健康

327

子宮頸がんは遺伝などに関係なく、性交経験がある女性なら誰でも

女子中学生になったら 子宮頸がん 予防ワクチンを

ローマウイルスに感染する前に、子宮頸がん予防ワクチンを



性による死亡原因の第3位、女性特有のがんの中では乳がんに次いで第2位を占めており、特に20代から30代の女性において、発症するすべてのがんの中

接種することで、かなり効果的に子宮頸がんを予防できます。本別町においても、子宮頸がん予防ワクチンの接種を推奨し、接種の助成をしています。健康管理センターにて、このワクチンの接種時期や接種回数、町内の接種日予約などの、問い合わせや相談が可能です。

本別町国民健康保険病院
副院長 郡山智也

で第1位となっています。最近の研究でこの子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス（HPV）による感染が原因であることがわかりました。がんの発症の原因である、ヒトパピローマウイルスのワクチンが開発され、その接種により子宮頸がんにかからないようにすることができるようになりました。性交渉を経験する前（ヒトパピ

未来に輝く 子どもたち

本別町の未来を担うかわいい星たちです。お父さん、お母さんのたくさんの愛で包まれてすくすく元気に育つね！



東町 貝瀬 未桜 (紫衣ママ)



緑町 花見 紗耶 (有美ママ)



北5丁目 古川 陽菜 (咲ママ)



錦町 山田 湊斗 (寿美ママ)

※写真は本人に了解を得た上で掲載しています

幼児期の運動、食事、心のバランスについて学ぶ 10/22



幼児期における生活習慣改善事業「パワフルキッズ講座」が10月22日、町体育館で開催されました。北星学園大学社会福祉学部の武田秀勝教授が講師となり、「幼児期を支える運動と食事」をテーマに講演。武田教授は「元気に体を動かすことと楽しい食事が丈夫な体を作り、ほめることで心が育つ」と、幼児期の運動と食事、心のバランスの大切さについて述べました。参加した幼児を持つ保護者など約30人は、真剣な眼差しで話に耳を傾けました。

銀河ホップ・ステップ・ジャンプ

足寄町

第32回 足寄町女性のつどい

フリーアナウンサーの宮本隆治さんを招いての講演のほか、北海道電力(株)による家庭でできる省エネ講座も開催します。どなたでも参加できますので、ぜひご来場ください。

11月27日(日)

午前10時～午後3時

足寄町民センター

午前10時30分～ 講座①「体験しよう！「ニコ」体操」

午前10時45分～ 講座②「家庭でできる省エネ講座」

午後1時～ 講演「ゆとり・ユーモア・帰りは元気！」

講師 宮本隆治さん (フリーアナウンサー)

午後2時30分～ 閉会式

※赤十字バザール、特産品販売コーナーも併せて開催します

参加料 無料

託児所を設置します。「ご希望の方はお申し込みください」

申込先・詳細

足寄町教育委員会生涯学習室

2513188

陸別町

「しばれ君・つららちゃん ストラップ」好評発売中!

しばれフェスティバルのマスクोटしばれ君とつららちゃんをストラップにしました。陸別の道の駅で好評発売中です。

しばれ君・つららちゃん

それぞれ480円で発売中

ですが、2個1組になったストラップ

(写真)は800円で販売しております。

お問い合わせ

陸別町振興公社



ご寄付ありがとうございます 平成23年9月15日から10月11日

次の通りご寄付をいただきました。紙上をかりて厚くお礼申し上げます。(敬称略)

★本別町老人ホーム指定
車いす1台 … 北2丁目 十勝地方道新会本別武山販売所

カボチャ15個 …… 活込 三浦 武
タオル150本 …… 北4丁目 辻田 武由

★本別町学校給食共同調理場指定
長ネギ195kg・玉ネギ85kg・キャベツ42.5kg
…………… 上本別 小川建設工業株式会社 社員親睦会
会長 鈴木 享宏

広報ほんべつ 第997号

平成23年11月1日発行
印刷／本別印刷株式会社

本のある暮らし

128

矢崎節夫先生の本を 読んでみませんか

お誕生

9月後半から
10月前半の
届出分

岡林 泰雅^{たいがくん} 秀和^{ひでお} 9/22 勇足東4
齊藤 瑠唯^{るい} 克^{かつ} 9/24 北8丁目
山田 湊斗^{みなと} 智士^{ちし} 9/25 錦町

ご結婚

(鈴木 典生^{のりひこ} 仙美里元町
濱田 由紀枝^{ゆきえだ} 勇足元町
太田 憲吾^{のりご} 向陽町
吉田 千穂^{ちほ} 新町

おくやみ

今井 肇^{はつ} 77歳 9/15 南1丁目
荒井 吉二^{きちじ} 77歳 9/18 向陽町
森 みよ江^{みよえ} 93歳 9/20 北3丁目
荒木 次郎^{じろ} 89歳 9/20 新町
高橋 文左衛門^{ぶんざゑもん} 77歳 9/22 新町
吉井 増雄^{まふお} 85歳 9/30 弥生町

2年生で学習
童話「うしろのまきちゃん」

5年生で学習
エッセイ「みずゞ探しの旅」



11月11日（金）の小学校出前授業、12日（土）のほんべつ学びの日・十勝教育を考えるつどいの講師として、児童文学者・詩人で金子みずゞ記念館館長の矢崎節夫先生が本別町を訪れます。

矢崎先生は多くの著作や講演などの活動を通して、童謡詩人金子みずゞの詩を世界中に伝え続けています。

出前授業では5年生と6年生が、教科書で学んだ金子みずゞの詩について、著者ご本人から貴重なお話を聞けることになりました。きっと忘れられない出会いになることでしょう。

読む人の心に響く矢崎先生の本…皆さんにぜひ読んでいただきたいすてきな作品です。

お問い合わせ先

本別町図書館

(愛称：ぶつくる一丸)

本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112

わたしたちのまち

前月比

人口 8,265人(-5)

男 4,075人(-2)

女 4,190人(-3)

世帯数 3,873戸(-7)

〔9月末日住民基本台帳〕

発行 本別町

編集 企画振興課
広報電算担当

住所 北海道中川郡本別町
北2丁目4番地1

電話 0156-22-8121
FAX (直通)
0156-22-3237

ホームページ
<http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/>



資源を大切に——
広報ほんべつは、道産間伐材を使用しています。